

問1 (×)

ダブルス競技において、サーブの際センターラインに触れたボールはロングサイドとなる。

*センターラインはそれぞれのライトハーフコートの一部と見なします。

問2 (×)

ネットの最上部は、全長にわたってプレーイングサーフェスの上方15.55 cm になければならない。また、ラージボールは17.25 cmになければならない。

*ネットの最上部は15.25 cm、ラージボールは17.25 cmとなります。

問3 (×)

ペンホルダーの競技者が片方はラバーを張っていたが、他方は白木のままだった。打球しない面であるので主審は許可した。

*ラケット本体を覆っているラバーの表面の表面、あるいは被覆されていない本体の表面は無光沢で片方は明るい赤、他方は黒でなければなりません。

問4 (○)

ダブルスのサービスの時、権利を持った方のサーバーが決まれば、最初のレシーバーは直前のゲームでその競技者にサービスを出した競技者となる。

*問題文のとおり。

問5 (×)

ラリー中、自分手から離れたラケットにボールが当たり相手コートに入った。相手はリターンに失敗した。自分のポイントである。

*ラケットハンドに持ったラケット、またはラケットハンドでインプレーのボールに触れた場合を「打つ」といいます。

問6 (×)

試合中メガネがはずれ床に落ちた。競技者はボールをつかみプレーを止めてレットと主審に申し出た。主審はレットと宣言をした。

*レットはラリーの結果に影響が及ぶほど条件が乱された場合であり、自己責任は乱れとは判断いたしません。

問7 (○)

主審または副審は、サービスの正当性に確信が持てない場合、それがマッチにおいて初めてであれば注意することができる。

*問題文のとおり（確信した場合は、注意ではなくフォルトとなります。）

問8 (×)

競技中、突然カーテンが開き光が差し込み、まぶしくてリターンに失敗した。主審は気づかず、相手の点数にした。

*競技者の制御しがたい原因により競技条件が乱れた場合はレットとなります。

問9 (×)

エッジとサイドの判定が難しかったので主審はノーカウントとしてゲームを再開した。

*審判員が判定する必要があるためノーカウントはありません。
（レットとならない限りどちらかにポイントは与えられます。）

問10 (○)

促進ルールの適用はゲーム開始後 10 分経過し、双方の合計が 18 ポイント以上に達しない場合に適用される。また、両方の競技者から要請があった場合にはいつでも適用される。

*問題文のとおり。

問11 (×)

ラリー中フリーハンドを床についてリターンした。相手はミスをしたがフリーハンドをついてはいけないことになっているので相手の点数になる。

*プレーイングサーフェスに触れた場合は失点となります。

問12 (×)

卓球用のシューズを忘れたため、学校指定のシューズで試合に望んだが、相手の選手からクレームが来た。

*シャツ、ショーツまたはスカートはいずれも J T T A が公認したものでなければなりません。シューズは競技に影響がないものであれば自由です。

問 13 (○)

ラケットには J T T A A の刻印及び商標または指定業者名の略称と、J T T A A の連続刻印がなければならない。

*問題文のとおり。

問 14 (○)

ラバーは、公認マークやメーカーの商標ロゴ等がラケット本体のグリップに最も近くはつきり見えるように張らなければならない。

*問題文のとおり。

問 15 (○)

大会では、競技者が公認接着剤を使用してラケットにラバーを貼る場所が提供されなければならない。

*問題文のとおり。

問 16 (×)

競技者がサービスの判定に対し、納得がいかず審判長に抗議してきた。

*主審または副審による事実の判定に対し、審判長に抗議することはできません。

問 17 (×)

団体戦の場合、競技にゲームとゲームの間の休憩時間にアドバイスできるのは、ベンチにいてることを認められた誰からでも受けることができるため、時間がかかってもやむを得ない。

*ゲームとゲームの間 1 分以内です。

問 18 (×)

主審がラブオール宣告後、競技者がタイムアウトを要求した。

*ゲーム中のラリーとラリーの間にのみ要求できます。

問 19 (○)

同じ競技者が連続してマッチを行う場合は、マッチとマッチの間に 5 分までの休憩を取ることができる。

*問題文のとおり。

問 20

正しいサービスとは。10項目記載せよ。

1. フリーハンドの手のひらを開き平らにする。
2. つかむことなく自由に転がる状態でボールをのせる。
3. 静止させる。
4. ボールに回転を与えない。
5. フリーハンドの手のひらからはなれた後、打球される前になにもものにも触れない。
6. フリーハンドの手のひらからはなれた後、16cm以上ほぼ垂直にあげる。
7. ボールが落下する途中を打つ。
8. 最初に自領コートに触れる。
9. ネットアセンブリを越えるかまたは迂回する。
10. レシーバーのコートに触れる。
11. ダブルス競技は最初にライトハーフコートに触れ、続いてレシーバーのライトハーフコートに触れる。
12. ボールはプレーイングサーフェスより高い位置。
13. ボールはサーバー側のエンドラインより後方。
14. ボールを体の一部または着用しているもので隠してはならない。
15. フリーアームとフリーハンドをボールとネットとの間の空間の外に出す。